

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう!

2019年度前期 開講講座

5月11日(土) 13時～16時30分

3・1独立運動100年と朝鮮半島のいま

——連続講座「朝鮮半島からみた日本の歴史」開催にあたって

講師＝**康成銀** (朝鮮大学校朝鮮問題研究センター長)

1、朝鮮半島からみた日本の歴史

朝鮮半島と日本は、古代より深いつながりを持っていた。にもかかわらず、明治維新を境に、アジアの盟主を夢見て帝国主義の道を歩んだ日本は、隣国の朝鮮をあたかも目下の民族であるかのように見下し、戦争に次ぐ戦争と、35年間に及ぶ植民地支配の末、1945年に無条件降伏をさせられた。しかしその根は完全に掘り起されはしなかった。隣りあう朝鮮半島と日本の歴史を、1年間のシリーズを通じて学んでいく。

- 講師＝**康成銀** (朝鮮大学校朝鮮問題研究センター長)
- ① 5月11日(土) **3・1独立運動100年と朝鮮半島のいま** ——連続講座「朝鮮半島からみた日本の歴史」開催にあたって
 - ② 6月12日(水) **朝鮮と日本の住民の成り立ち、倭の王権と朝鮮** (高句麗、百済、新羅、伽耶)
 - ③ 7月10日(水) **「日本」の成立と新羅・渤海、モンゴルの来襲と東アジア**
 - ④ 8月21日(水) **室町時代・織豊政権期・江戸時代の日本と朝鮮——交隣、その虚実**
 - ⑤ 9月18日(水) **近代日本の朝鮮侵略——明治維新・日清戦争(第一次朝鮮・東北アジア戦争)**

〈後期(2019年11月～2020年3月)の講座テーマ〉

- ⑥ 日露戦争(第二次朝鮮・東北アジア戦争)と韓国強制「併合」
- ⑦ 日本の朝鮮植民地支配と民族解放闘争(第三次朝鮮・東北アジア戦争)
- ⑧ 解放と分断——日本の「戦後民主主義」と朝鮮戦争(第四次朝鮮・東北アジア戦争)
- ⑨ 21世紀の朝鮮と日本——脱植民地主義・脱冷戦

2、掘りくずされる憲法秩序と象徴天皇制

内政・外交ともに難問山積、差別と抑圧・生きづらさが充満する社会の閉塞状況を覆い隠すように、排外思想の根源である天皇制への国民的関心を掻き立てる「代替わり」儀礼の空騒ぎがマスメディアを総動員して進行中である。「主権者」としての自覚の欠如が招く民主主義の空洞化をいかに打開するか。受講者のみなさんとともに考えたい。

- ① 5月18日(土) **日本国憲法と天皇制** ——「代替わり」騒ぎのなかで改めて考える
講師＝清水雅彦 (日本体育大学教授・憲法学)
- ② 8月24日(土) **参戦国家化の中の天皇代替わり報道を問う** ——30年前を参照しながら
講師＝中島啓明 (ジャーナリスト)

3、階級消滅論・階級協調幻想を打ち砕こう!

「経営者目線で考えろ」「労働者が生産性向上に協力するのは当然だ」との風潮がまかり通っている。しかし本質は違う。支配階級は、起ち上がる労働者には徹底的な弾圧と排除、組合つぶしで臨み、その影響力を根こそぎにしようとする。ともに学び、資本のイデオロギーから峻別された階級意識、価値観を確立しよう。それが、日朝連帯をはじめとする国際的な労働者の連帯の基盤ともなるのだ。

- ① 6月1日(土) **労働組合で取り組む日朝連帯活動** ——群馬の森・朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑裁判に取り組んで
講師＝倉林 誠 (国労高崎地本書記長)
- ② 6月26日(水) **関西生コン支部への弾圧を許すな!** ——財界・国家権力一体となった組合潰しに負けない
講師＝小谷野毅 (全日本建設運輸連帯労組書記長)
- ③ 7月3日(水) **労働者としていかに生き活動するのか?** ——国鉄からJRの現場で40年闘って
講師＝青柳義則 (国労東京・中部全労協議長)
- ④ 9月11日(水) **労働者階級は厳然と存在する** ——AI、IoT、階級消滅論のデタラメさ
講師＝山下勇男 (社会主義理論研究)

夏季セミナー いま、鋭く問われる日本人の歴史認識 7月28日(日)～30日(火) (神奈川県内の施設に宿泊/事前申込・宿泊料別途必要)

- ① 7月28日(日) **解放直後の在日朝鮮人運動が問いかけたもの** ——朝連・民青強制解散70年に際して
講師＝鄭栄桓 (明治学院大学教員)
- ② 7月28日(日) **『朝鮮人になる』(石井政和作品)上映**
- ③ 7月29日(月) **労働現場でどう闘うか**
- ④ 7月29日(月) **〈戦争民主主義〉と継続する植民地主義(天皇制)**
講師＝中野敏男 (東京外国語大学名誉教授)
- ⑤ 7月29日(月) **目取真俊『沖縄「戦後」ゼロ年』をめぐって**
報告＝斉藤光太郎 (HOWS受講生)
- ⑥ 7月30日(火) **高校無償化問題のいま** ——全国の朝鮮学校を訪ね歩いて考えたこと
講師＝長谷川和男 (朝鮮高校生の裁判を支援する会共同代表)

4、大西巨人『神聖喜劇』を読む

——光文社文庫版(全五巻)をテキストに

アドバイザー＝立野正裕 (元明治大学教員)
山口直孝 (二松学舎大学教員)

アジア太平洋戦争中の対馬兵営を舞台に、青年知識人東堂太郎が不条理に抵抗しながら回生していくさまを描いた本作は、20世紀文学の傑作と評価されている。全五巻、文庫本で2,500ページの大作を読み、主人公たちがたたく精神をいかにつかひ、連帯する可能性をはぐんでいったかを検証し、その今日的意義を探っていく。

- ① 5月29日(水) **第五部 雑草の章** ——「道義および公正」の模索 (光文社文庫版第三巻)
報告＝杉山雄大
- ② 6月29日(土) **第六部 迷宮の章** ——「芸術家」であろうとする心構え (光文社文庫版第三巻)
報告＝渥美 博
- ③ 9月21日(土) **第七部 連環の章(第一～第四)** ——「(悪質)転向者」との闘争 (光文社文庫版第四巻)
報告＝HOWS受講生<交渉中>

このシリーズは、受講生が分担して報告を行ないます。後期も3回予定しています。

5、インターナショナルな思想を学ぼう! 諸国人民の経験から学ぼう!

支配階級は階級意識を隠すことなくマスメディアを駆使し労働者人民に攻撃を加えている。一方、闘う主体の側はマスメディアなどで浸透し割り上げられた大衆意識に迎合し自らの主張を明示出来ないでいる。闘う諸国人民の経験から学び国境を越えて連帯する思想の形成と実践が主体の確立に必須の課題である。

- ① 7月13日(土) **新たな歩みを進める社会主義キューバ** ——2019キューバ訪問団の報告と映像
報告＝田沼久男 (HOWS受講生)、村上理恵子 (HOWS受講生)、中村泰子 (HOWS受講生)
- ② 9月28日(土) **ニカラグアを知ろう** ——過去と現在、サンディニスタ革命40周年
講師＝ロドリゴ・コロネル (ニカラグア共和国駐日特命全権大使)

6、世界の短編小説を読む

今期はシチリア文学の特集である。古来複雑な曲折をたどり、つねに歴史の重要な舞台に登場させられてきたシチリア。地中海特有の風土と歴史があいまって、たくいまれな文学の沃土が形成され、幾多の才能を輩出させてきた。近代以降の代表的な四人の作家を取り上げる。課題作品はすべて『短篇で読むシチリア』(武谷なおみ編訳、みすず書房)に収録されている。(開始時間は各回とも午後6時30分)

- 講師＝立野正裕 (元明治大学教員)
- ① 5月22日(水) **ジュゼッペ・トマーゾ・ディ・ランペドゥーザ作「幼年時代の場所」**
 - ② 6月5日(水) **ジョヴァンニ・ヴェルガ作「金の鍵」「ルーバ」**
 - ③ 8月28日(水) **フェデリーコ・デ・ロベルト作「ロザリオ」**
 - ④ 9月25日(水) **ルイーダ・ピランデッロ作「真実」「免許証」**

〈附記〉ランペドゥーザの代表作『山猫』、ヴェルガの代表作『マリヴォルガ家の人々』、ピランデッロの『カオス・シチリア物語』などは映画化されている。シチリア理解を深めるため、紹介かたがた講座で、もしくは日時を設定して適宜上映したい。

7、映像を通して考える現代社会

- ① 6月15日(土) **『泥ウソとテント村——東大・山形大腐敗対闘争記』** (2004年 110分 制作=小川町シネクラブ、演出=新田進)
報告＝藤原 晃 (教育労働者)、大屋敷健二 (元山形大学寮生)
※元山形大学寮生・東大駒場寮生、現京大吉田寮生も参加予定
- ② 8月31日(土) **『チリの闘い』第一部:ブルジョワジーの叛乱** (1975年・チリ=フランス=キューバ 96分 監督=パトリシオ・グスマン)
解説＝井野茂雄 (文化活動家)
- ③ 9月7日(土) **『未知への飛行 フェイル・セイフ』** (1964年・アメリカ 112分 監督=シドニー・ルメット)
解説＝立野正裕 (元明治大学教員)

8、この人にきく

- ① 7月6日(土) **福島原発事件から8年の現実**
講師＝國分富夫 (相双の会会長)
- ② 7月17日(水) **湯地朝雄の文芸批評** ——芸術運動と国際連帯
講師＝山口直孝 (二松学舎大学教員)
- ③ 7月20日(土) **現代世界の対立構図**
講師＝鎌倉孝夫 (埼玉大学名誉教授)
- ④ 9月14日(土) **沖縄戦の記憶と辺野古反基地闘争** ——『遅すぎた聖断』を上映
講師＝青木初子 (沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック)

HOWS講座カレンダー 2019年度前期(5月～9月)

- ① 5月11日(土) **開講講座 3・1独立運動100年と朝鮮半島のいま**
講師＝康成銀
- ② 5月18日(土) **日本国憲法と天皇制**
講師＝清水雅彦
- ③ 5月22日(水) **ジュゼッペ・トマーゾ・ディ・ランペドゥーザ作「幼年時代の場所」**
講師＝立野正裕
- ④ 5月29日(水) **第五部 雑草の章 ——「道義および公正」の模索**
報告＝杉山雄大
- ⑤ 6月1日(土) **労働組合で取り組む日朝連帯活動**
講師＝倉林 誠
- ⑥ 6月5日(水) **ジョヴァンニ・ヴェルガ作「金の鍵」「ルーバ」**
講師＝立野正裕
- ⑦ 6月12日(水) **朝鮮と日本の住民の成り立ち、倭の王権と朝鮮(高句麗、百済、新羅、伽耶)**
講師＝康成銀
- ⑧ 6月15日(土) **『泥ウソとテント村——東大・山形大腐敗対闘争記』**
報告＝藤原 晃、大屋敷健二
- ⑨ 6月26日(水) **関西生コン支部への弾圧を許すな!**
報告＝小谷野毅
- ⑩ 6月29日(土) **第六部 迷宮の章——「芸術家」であろうとする心構え**
報告＝渥美 博
- ⑪ 7月3日(水) **労働者としていかに生き活動するのか?**
報告＝青柳義則
- ⑫ 7月6日(土) **福島原発事件から8年の現実**
報告＝國分富夫
- ⑬ 7月10日(水) **「日本」の成立と新羅・渤海、モンゴルの来襲と東アジア**
講師＝康成銀
- ⑭ 7月13日(土) **新たな歩みを進める社会主義キューバ**
報告＝2019キューバ訪問団
- ⑮ 7月17日(水) **湯地朝雄の文芸批評**
講師＝山口直孝
- ⑯ 7月20日(土) **現代世界の対立構図**
講師＝鎌倉孝夫
- ⑰ 7月28日(日) **解放直後の在日朝鮮人運動が問いかけたもの**
講師＝鄭栄桓
- ⑱ 7月28日(日) **目取真俊『沖縄「戦後」ゼロ年』をめぐって**
報告＝斉藤光太郎
- ⑲ 7月29日(月) **労働現場でどう闘うか**
- ⑳ 7月29日(月) **〈戦争民主主義〉と継続する植民地主義(天皇制)**
講師＝中野敏男
- ㉑ 7月29日(月) **『朝鮮人になる』(石井政和作品)上映**
- ㉒ 7月30日(火) **高校無償化問題のいま**
講師＝長谷川和男
- ㉓ 8月21日(水) **室町時代・織豊政権期・江戸時代の日本と朝鮮——交隣、その虚実**
講師＝康成銀
- ㉔ 8月24日(土) **参戦国家化の中の天皇代替わり報道を問う**
講師＝中島啓明
- ㉕ 8月28日(水) **フェデリーコ・デ・ロベルト作「ロザリオ」**
講師＝立野正裕
- ㉖ 8月31日(土) **『チリの闘い』(第一部)**
講師＝井野茂雄
- ㉗ 9月7日(土) **『未知への飛行 フェイル・セイフ』**
講師＝立野正裕
- ㉘ 9月11日(水) **労働者階級は厳然と存在する**
講師＝山下勇男
- ㉙ 9月14日(土) **沖縄戦の記憶と辺野古反基地闘争**
※『遅すぎた聖断』を上映
講師＝青木初子
- ㉚ 9月18日(水) **近代日本の朝鮮侵略——明治維新・日清戦争(第一次朝鮮・東北アジア戦争)**
講師＝康成銀
- ㉛ 9月21日(土) **第七部 連環の章(第一～第四)** ——「(悪質)転向者」との闘争
報告者<交渉中>
- ㉜ 9月25日(水) **ルイーダ・ピランデッロ作「真実」「免許証」**
講師＝立野正裕
- ㉝ 9月28日(土) **ニカラグアを知ろう**
講師＝ロドリゴ・コロネル

※⑰～⑳は夏季セミナー

◀2019年度前期募集要項▶

- 定員 本科生40名(5月1日(水)メーデーより募集)
- 全講座27回(各週1～2回程度) ※夏季セミナー6講座を除く
- 本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ講座を集中して学ぶ夏季合宿(前期)や、懇親会などの企画があります。

◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。

- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要)
受講料…前期:25,000円、後期:25,000円
- 前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
- 聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
- 1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
- 2019年度前期の聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
- 本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。

- 申込方法
- 所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。

- 注意事項
- HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
- 講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①HOWS文学ゼミ(戦後文学ゼミを改称) チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第I期として、2018年からは第II期、名称もHOWS文学ゼミで再出発する所存です。第I期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒廃した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。今期は、以下の報告会を予定しています。

- 目取真俊の文学から沖縄を探る 報告＝斉藤光太郎
- 芸術運動の精神——湯地朝雄の批評 報告＝山口直孝
- 近代天皇制と中野重治——『村の家』と『五勺の酒』 報告＝渥美 博
- 有島武郎——その文学の山脈 報告＝伊藤龍哉